

1. 平成 26 年の水害被害額の概要

【被害の特徴等】

◆水害被害額は、全国で約 2,900 億円（過去 10 年間で 7 番目）

◆都道府県別の水害被害額上位 3 県は、以下のとおり。

1 位：広島県（水害被害額：約 444 億円）

広島市で発生した土砂災害により甚大な被害が発生。

2 位：京都府（水害被害額：約 289 億円）

平成 25 年に引き続き、福知山市街地で多数の浸水被害が発生。

3 位：高知県（水害被害額：約 286 億円）

台風 12 号・11 号に伴う立て続けの豪雨により浸水被害が発生。

◆主要な水害による水害被害額及び概要

○台風 12 号・11 号（7 月 29 日～8 月 12 日）（水害被害額：約 890 億円）

・高知県では、台風 12 号・11 号に伴う立て続けの豪雨により、
仁淀川水系日下川、宇治川等が氾濫し、いの町で 292 棟、
日高村で 310 棟の浸水被害が発生した。

・徳島県では、台風 11 号に伴う豪雨により、那賀川水系那賀川
が氾濫し、阿南市で 342 棟、那賀町で 372 棟の浸水被害が発生。
阿南市では、市内の加茂谷中学校の校舎 2 階まで浸水する
被害となった。



校舎の 2 階まで浸水

那賀川水系那賀川の氾濫で
中学校が浸水（徳島県阿南市）

○豪雨（8 月 13 日～26 日）（水害被害額：約 945 億円）

・猛烈な雨を観測した広島県では、8 月 20 日未明、広島市に
おいて、土砂災害等が多発し、死者 77 名、負傷者 68 名、全
壊 184 棟、半壊 165 棟にのぼるなど甚大な被害となった※¹。

・京都府では、平成 25 年に引き続き、由良川水系弘法川等が
氾濫し、福知山市街地で 2,406 棟の浸水被害が発生した。



土砂災害による甚大な被害
（広島県広島市）

※¹ 死傷者数は、「8 月 19 日からの大雨等による広島県における被害状況及び消防の活動等について」（消防庁作成）の数値を使用。

(1) 水害被害額

約 2,900 億円

〔内 訳〕	
・ 一般資産等被害額	約 1,317 億円 (構成比 44.8 %)
・ 公共土木施設被害額	約 1,520 億円 (構成比 51.7 %)
・ 公益事業等被害額	約 101 億円 (構成比 3.4 %)
計	約 2,938 億円

注) 被害額には、人的損失、交通機関のストップなどによる波及被害、被災した企業の部品・製品供給機能、本社機能等が損なわれることによる他地域の企業への影響等に係るものは含まれていない。

(2) 水害被害の概要

① 被災建物棟数 **約 29,000 棟**

〔内訳〕	○全壊・流失	261 棟	○半 壊	652 棟
	○床上浸水	7,933 棟	○床下浸水	20,417 棟
			計	29,263 棟
※地下部分が浸水した建物棟数は 255 棟				

② 浸水区域面積 **約 13,000 ha**

〔内訳〕	○宅地・その他	3,144 ha	○農 地	9,615 ha
			計	12,759 ha
※地下の浸水区域面積は 2 ha				

(3) 全国の被害

表－1 平成26年水害被害一覧

事項		単位	被害	事項		単位	被害		
死傷者数	死者	人	100	公共土木施設被害	水系・沿岸数		949		
	行方不明	人	2		河川・海岸数		4,117		
	負傷者	人	137		市区町村数		849		
	計	人	239		河川	百万円	77,189		
水面積区域	水系・沿岸数		257		海岸・港湾	百万円	12,575		
	河川・海岸数		825		砂防設備	百万円	5,448		
	市区町村数		504		地すべり防止施設	百万円	148		
	宅地・その他	ha	3,144		急傾斜地崩壊防止施設	百万円	290		
		農地	ha		9,615	道路	百万円	47,622	
		計	ha		12,759	橋梁	百万円	2,526	
	地下	ha	2		下水道	百万円	2,598		
	家屋被害	地上	全壊・流失		棟	261	公園・都市施設	百万円	3,605
			半壊		棟	652	計	百万円	152,000
			床上浸水	棟	7,933	水系・沿岸数		117	
床下浸水			棟	20,417	河川・海岸数		152		
地上計			棟	29,263	市区町村数		229		
地下浸水	棟	255	被害額	物的被害額	百万円	2,954			
被災世帯数等	地上	全壊・流失		世帯	233	運輸	営業停止損失	百万円	571
		床上浸水		世帯	7,782	計	百万円	3,525	
		床下浸水		世帯	21,745	通信	物的被害額	百万円	673
		地上計		世帯	29,760		営業停止損失	百万円	12
地下浸水	世帯	258		計	百万円	685			
農漁家数	戸	428		電力	物的被害額	百万円	3,251		
事業所数	地上浸水	事業所			2,976	営業停止損失	百万円	786	
	地下浸水	事業所			39	計	百万円	4,037	
事業所従業者数	人	13,402		ガス	物的被害額	百万円	45		
被害額	一般資産	家屋			百万円	63,865	営業停止損失	百万円	0
		家庭用品			百万円	37,710	計	百万円	45
		農漁家資産		百万円	59	水道	物的被害額	百万円	1,658
		事業所資産	百万円	16,942	営業停止損失		百万円	112	
		家庭応急対策費	百万円	5,199	計		百万円	1,770	
		事業所応急対策費	百万円	2,707	計	物的被害額	百万円	8,580	
	計	百万円	126,482	営業停止損失		百万円	1,482		
計	百万円	10,062	計	百万円		10,062			
営業停止損失	百万円	2,940	/						
農作物	百万円	2,319							
計	百万円	131,741							
被害額合計						百万円	293,803		

注1) 死傷者数は、消防庁調べに基づき、国土交通省において水害・土砂災害を原因としない

死傷者数(例：強風による転倒等)を除いて再集計したもの。

注2) 水系・沿岸数、河川・海岸数、市区町村数については延べ数である。

注3) 被害額については表示単位未満を四捨五入しているため、内訳の合計数値と計は一致しない場合がある。

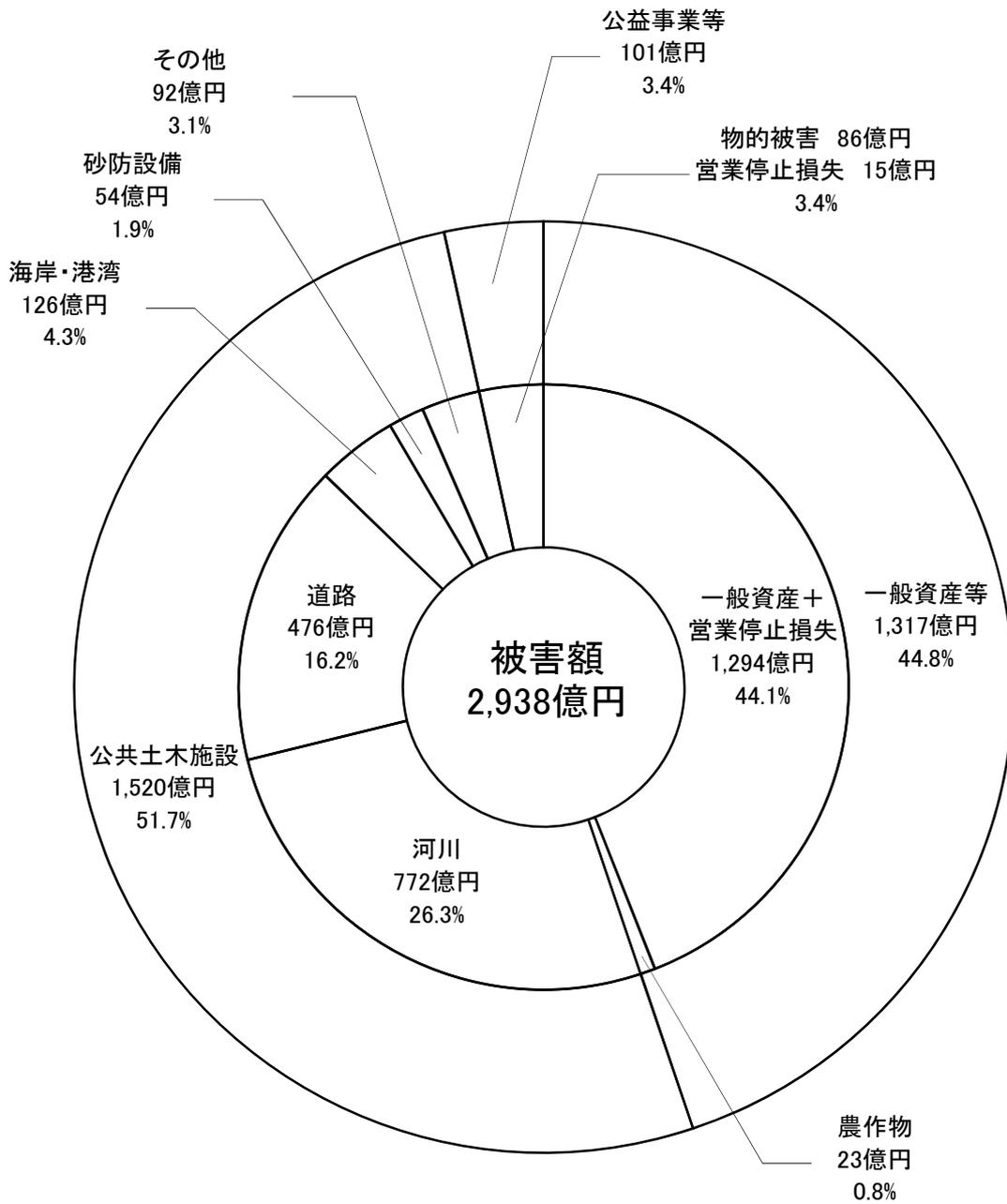


図-1 平成26年水害被害額構成比

(4) 台風12号・11号による水害被害額等

水害被害額	被害の概要
<p>約890億円</p> <p>※7月29日～8月12日に生じた台風12号・11号による被害額。</p> <p>〔内訳〕</p> <p>一般資産等被害額 約275億円</p> <p>公共土木施設被害額 約599億円</p> <p>公益事業等被害額 約17億円</p>	<p>○死傷者数 25名（死者4名 行方不明者0名 負傷者21名）</p> <p>○被災建物棟数 7,641棟 ○浸水面積 4,502ha</p> <p>【 気象概況 】</p> <p>（台風12号）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月30日頃から、北日本や西日本で雨の日が多くなり、特に四国地方では、降り始めからの雨量が1,000ミリを超える等、8月の月降水量（平年値）の2～4倍となった。また、前線や南からの暖かく湿った空気の影響で、5日夜から中国地方や東北地方で大雨となり、特に山口県では、局地的に1時間に100ミリを超える猛烈な雨の降ったところがあった。 <p>（台風11号）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西日本から北日本の広い範囲で大雨となり、特に、高知県では7日から11日までの総雨量が多いところで1,000ミリを超えるなど、四国地方から東海地方にかけて総雨量が600ミリを超える大雨となった。記録的な大雨となった三重県では、大雨特別警報が発表された。
<p>【 被害状況 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風12号・11号による都道府県別の水害被害額上位3県は、以下のとおり。 <p>1位：高知県（約253億円）</p> <p>2位：徳島県（約152億円）</p> <p>3位：兵庫県（約79億円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県では、台風12号・11号に伴う立て続けの豪雨により、仁淀川水系日下川、宇治川等が氾濫し、いの町で292棟、日高村で310棟の浸水被害が発生した。 ・また、高知県では、土砂崩れに伴いJR土讃線が1週間以上にわたり運休となった他、四万十町では河川氾濫により浄水場が浸水し、約2,500世帯が1週間以上にわたり断水するなど、ライフラインへの被害も発生した。 ・徳島県では、台風11号に伴う豪雨により、那賀川水系那賀川が氾濫し、阿南市で342棟、那賀町で372棟の浸水被害が発生。阿南市では、市内の加茂谷中学校の校舎2階まで浸水する被害となった。 ・四国各地では、台風12号・11号に伴う豪雨により、高速道路や国道で長時間にわたり通行止めが発生した他、路面冠水や土砂災害により、一部では生活道路が寸断される等、周辺住民に多大な影響を及ぼした。 	 <p>仁淀川水系宇治川の氾濫（高知県いの町）</p>  <p>那賀川水系那賀川の氾濫（徳島県阿南市）</p>

注) 死傷者数は、消防庁調べに基づき、国土交通省で作成したもの。

(5) 豪雨（8月13日～26日）による水害被害額等

水害被害額	被害の概要
<p>約945億円</p> <p>※8月13日～26日に生じた豪雨による被害額。</p> <p>〔内訳〕</p> <p>一般資産等被害額 約567億円</p> <p>公共土木施設被害額 約318億円</p> <p>公益事業等被害額 約61億円</p>	<p>○死傷者数 158名（死者84名 行方不明者0名 負傷者74名）</p> <p>○被災建物棟数 9,528棟 ○浸水面積 2,734ha</p> <p>【 気象概況 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月15日から17日にかけて、本州付近に前線が停滞し、前線に向かって南から湿った空気が流れ込んだ影響で、東日本と西日本では広い範囲で大気の状態が非常に不安定となった。 ・局地的に雷を伴って非常に激しい雨が降り、16日と17日の2日間に降った雨の量が、京都府福知山市や岐阜県高山市等で観測史上1位を更新する等、近畿、北陸、東海地方を中心に大雨となった。 ・その後も、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、中国地方や九州北部地方を中心に大気の状態が非常に不安定となった。20日3時30分には、広島県で1時間に約120ミリの猛烈な雨を観測した。また、22日4時30分には、福岡県で1時間に約110ミリの猛烈な雨を観測した。
<p>【 被害状況 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豪雨（8月13日～26日）による都道府県別の水害被害額上位3県は、以下のとおり。 <p>1位：広島県（約415億円）</p> <p>2位：京都府（約250億円）</p> <p>3位：岐阜県（約134億円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猛烈な雨を観測した広島県では、8月20日未明、広島市において、土砂災害等が多発し、死者77名、負傷者68名、全壊184棟、半壊165棟にのぼるなど甚大な被害となった。 ・また、この土砂災害等により、JR可部線が線路などの設備に被害を受け、1週間以上にわたり運休するなど、ライフラインにも被害が発生した。 ・この災害を契機として、土砂災害の危険性のある区域の明示や円滑な避難勧告等の発令に資する情報の提供、避難体制の充実・強化、国による支援等を盛り込んだ「土砂災害防止法」の改正案が成立、平成27年1月に施行された。 ・京都府では、平成25年に引き続き、由良川水系弘法川等が氾濫し、福知山市街地で多数の浸水被害が発生した。（平成16年、25年、26年と近10年で3回の浸水被害）。 	



広島市安佐南区上空からの被災状況



由良川水系弘法川の氾濫（京都府福知山市）

注) 死傷者数は、消防庁調べに基づき、国土交通省で作成したもの。